

港区立南山小学校
令和5年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	「書くこと」の資質・能力 ・題材の設定、情報の収集、内容の検討 ・構成の検討 （思考力・判断力・表現力）	・全国学力・学習状況調査（6年生）の結果から、「記述式」は条件を満たさない解答、または無解答率が高い。求められている内容について自分の考えをもち、必要な情報は何かを判断して、適切に表現する力が不十分であること、また、「書くこと」への抵抗感をもつ児童がいることが課題である。	・各教科の学習や生活の中で、書く活動ができるだけたくさん取り入れる。（形式等にとらわれず、楽しんで書く場） ・児童が目的意識・相手意識をもって主体的に取り組めるテーマの設定の工夫、交流活動の工夫 ・付箋紙を使った情報収集や構成の検討 ・説明、報告、紹介、手紙、新聞等、多様な言語活動

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	・学習問題を主体的に考え、課題意識をもって学習に取り組む姿 ・他者と積極的に関わり自分の考えを広げる姿（思考力・判断力・表現力） ・自分の学びをふり返り、学んだことを生活の中で生かそうとする姿（学びに向かう力、人間性等）	・社会科の学習が苦手と回答した児童が、全体の 18%であり、他教科と比べ否定的に回答した児童が多い。 ・学習問題をつくることが苦手と回答した児童が全体の 34%であった。 ・学習感想や振り返りを書くことが苦手と回答した児童が、全体の 28%であった。	・課題を身近な視点から見だし、児童が継続的に追究することができるよう、学習展開を工夫する。 ・課題を児童が自分事として捉え、話し合い活動を通して、学習問題を設定し、学習計画に沿って、課題を解決するという達成感を味わうことができる指導計画を立て、実施する。 ・学習感想や振り返りを自分事として考え、今後の生活や学習に生かすことができるよう、書く内容を具体的に指示するなど、自分の考えを書くことができるよう、書くことを重点的に指導していく。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	・問題解決力 ・考えたことを他者に伝える力 （思考力・判断力・表現力）	・全国学力・学習状況調査の東京都の四部位をA～D層に分け計算したものを示し、南山小と東京都の割合を比較したところ、A層とB層の合計は、全国と比べて 9.3 ポイント高くなっている。学力差が大きいC層やD層の底上げが課題になっている。	・習熟度別に学習することで、基礎学力の定着、向上に結び付いていると考えられる。特に学力に課題がある児童に対しては、個に応じた学習をしていくことで、基礎的・基本的な知識理解の習得を目指す。 ・ICT機器を活用することで、多様な考えに触れる機会を作る。多様な考えに触れることで、思考力や判断力を高める。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	観察や実験結果から得られたことをもとに、まとめる力 (思考力・判断力・表現力)	理科の学習を理解していると回答した児童は全校で 9 割程度であり、めあてをもって学習することができている。SDGs との関連を意識し、持続可能な社会の実現のために工夫して問題解決していく力を身に付けさせたい。	- 観察や実験における共通点や相違点に着目し、次への課題を見出すことや既習事項との関連性を意識して自身の考えを他者に伝えるようにまとめる活動を取り入れる。 - 自分の考えを他者へ伝える活動を通して、ICT を効果的に活用し、より分かりやすく表現できるように繰り返し取り組み、考えを伝える力を向上させる。 - 学習で学んだことと SDGs を関連付け、自分の生活に生かすことができるよう活用の工夫を行う。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	- 身近な人々や社会、自然に関心を持ち、自分とのかかわりで捉える力 (学びに向かう力、人間性等) - 自分の体験や気持ちを表現する力 (思考力・判断力・表現力)	- コロナ禍で異学年交流や地域との交流が減少していた。 - 対話的な交流をする機会の減少 - 振り返りや書くことに対する苦手意識をもつ児童が多い。	- 学級だけでなく、学年や異学年、保幼、地域との交流の機会を設定し、相手意識や目的意識をもって活動や表現につなげられるようにする。 - 活動の中で生まれた個々の気づきを、対話的な学習を通して全体で共有する。 - 他教科と連携した指導を行い、様々な活動や体験を通じて、自らの気づきを広げたり深めたりできるようにする。 - 児童の活動のめあてを意識させ、振り返りを通して、次時への課題意識をもたせる。 - 学びの過程に「伝える」場面を位置付け、工夫して表現する機会を多く設定すると共に、多様な表現方法があることを知らせる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる力 (知識及び技能)(思考力・判断力・表現力)(学びに向かう力・人間性等)	感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりする力を、更に身に付けさせたい。	音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことなどを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた(言葉のやり取りだけでなく、言葉で表したことと音や音楽との関わりが捉えられる)言語活動を適切に位置付けられるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	・経験や交流を通し、見方や感じ方を広げ、思いや考えを主体的に表現する力（思考力・判断力・表現力）（学びに向かう力）	・めあてをもって活動することができている。表現する喜びを感じながら、造形的な活動を通して知識・技能を身に付けている。まとめや振り返りで自分の工夫したことを確かめる力を付けたい。	・めあてを明確にし、活動を通してどんな力を付けたり発揮したりするのか、児童自身が感じられるようにする。そのために図工ノートやタブレット、鑑賞活動などを活用し、自分の活動を振り返り、友達との交流を通して互いのよさを認め合えるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	・調理や裁縫の基礎的な知識や技能（知識・技能） ・生活の中から課題を見出し、解決方法を検討したり実践の中で表現したりする力（思考力・判断力・表現力等） ・学んだことを活用して生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度（学びに向かう力・人間性等）	・家庭科の学習が将来に役立つととらえている児童はかなり多く、めあてをもって学習することができている。調理や裁縫などの技能や、SDGsや環境と家庭科学習が密接な関わりがあるという視点をもたせ、学習した内容を実践につなげられる資質や能力を身に付けさせたい。	・生活の中から課題を設定し、解決を図るために必要な基礎的・基本的な技能を習得できるようにする。 ・持続可能な社会の構築に向けて、身近な生活と環境を関わらせながら学習活動を進める。環境や資源を大切にする視点をもたせ、循環を実感できるような指導計画の工夫を行う。 ・習得した知識及び技能を活用して、身近な生活の課題を解決したり、家庭や地域で実践したりできるように、学習過程を工夫する。

	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	・運動や健康についての自己の課題の解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力（思考力・判断力・表現力） ・健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度（学びに向かう力・人間性等）	・近年の体力テストの結果から、全体的に投力や跳力の数値が低い傾向にある。 ・コロナ禍で運動機会の減少や運動量の低下が懸念され、運動から疎遠になる児童も見られる。様々な運動に触れる機会を設定し、生涯にわたり運動を楽しむ態度を養いたい。	・課題解決のための方法を自ら思考し、自分に合う方法を選択できるような場の設定をする。 ・成果と課題を振り返ることができるような欄を学習カードに設定し、評価と支援に生かす。 ・発達の段階に応じて高める体力の重点化を図り、自己の体力や体の状態に応じて体力向上に取り組めるよう、活動を工夫する。（体力テストの結果の活用） ・業間体育等の時間を使い、様々な運動に触れる機会を設定し、すすんで運動に取り組もうとする態度を育てる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	・友達と外国語を使ってやり取りする力（知識・技能） ・どのように伝えたら友達に分かりやすく自分の考えを伝えることができるのかを考える力（思考力・判断力・表現力） ・外国語の学習を自らの生活と結び付けることや、互いの文化を尊重するなど、相互理解をしようとする態度（学びに向かう力、人間性等）	・「聞くこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「読むこと」「書くこと」の4技能5領域を意識した45分間の授業設計や年間指導計画が求められる中で、授業構成の中でゲーム要素が多くなりがちで、児童一人一人が発話する時間や言語表現を行う時間が十分に確保できていない場合がある。 ・中学校への接続を見据えた高学年での「読むこと」「書くこと」の言語活動の充実が不十分な場面も見られる。	・全学年、全クラスで同じ掲示物を使い、大まかな流れを同じにすることで、児童が授業の流れを予測することができ、安心して学習に取り組むことができる。 ・単語の学習を重点的に行うことで、知識の定着を図り、外国語を使ったコミュニケーションをするための一助としている。 ・NTや担任が活動前にデモンストレーションを積極的に行っている。そのようにすることで、児童が主体的にどのように伝えたらよいのかを考得られるようにしている。 ・様々な国の挨拶や文化、風習を学習することを通して、日本と外国の違いに気が付き、外国への関心を高めることができる。 ・自分の体験を簡単な英文で書いたり、書いたことをスピーチする機会を設定したりして、中学校を見据えた言語活動を図る。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	・各授業において、他者との意見交流や自身との対話を通して物事を多面的・多角的に捉えて実生活へ活かそうとする態度を育てる。（学びに向かう力、人間性等）	・全校の学校評価の結果から、「道徳の勉強はよくわかりますか」の質問に対して、肯定的な回答をした割合は89ポイントであったが、否定的な回答をした児童は11ポイントであった。価値項目の中で、「挨拶をすすんでする」ことに対して否定的な回答をした児童は19ポイントであり、他の項目と比べて否定的な回答をした児童が多かった。	・2学期に行われる「道徳授業地区公開講座」での授業公開や講師の先生による講演を通して、家庭と学校との情報共有を図る。 ・道徳の学習を通して全学級、あいさつについて取り上げ、自らすすんであいさつを行う意識を高める。また、特別活動で、たてわり班「あいさつ運動」を行うことで、自分から気持ちのよい挨拶をする礼儀正しい児童の育成するために実践的に取り組ませる。 ・授業での教材文の提示の際に、場面絵を提示することや、教材文を読む前に登場人物の提示をすることでより自分事として考えられるようにする。 ・振り返りをする際に、登場人物の心情の変化だけではなく、自分自身についての振り返りを書くように指示を出す。また、記入した後に交流することで自身が気が付かなかった点に気が付き学びを深めさせる。

特別活動	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	- 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動をする上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付ける。(知識・技能) - よりよく生きるために、自分に合った目標を設定し、価値観や個性を受け入れ、よりよい人間関係を築いていく力。(思考力・判断力・表現力)	異学年交流の場を行事予定の中に意図的に設定し、顔合わせ集会やなかよし集会、年2回のあいさつ運動、児童集会や百人一首などを実施してきたが、感染症対策の一環で、入学式や運動会の係児童の設置や奉仕活動等の交流が自粛されてきた数年であった。上級生が活躍している姿を見ることができずに、現上級生として活躍を求められる場が増えている。高学年には適切な支援を行い、低中学年には、上級生の姿をロールモデルとできるように日常や行事を通して、指導を重ねていく。	- 各活動のねらいとゴールを児童と共に明確に設定し、児童が見通しをもって主体的に取り組むことのできる計画を立てる。児童が主体的に組織をつくり、役割を自覚しながら仕事を分担して、協力したり、合意形成をしたりしながら、活発な活動が展開されるように発達段階に応じて、各学年で指導を積み重ねていく。 - 異学年交流としての縦割り班やペア学年で行う行事を日常的に計画し、上級生のリーダーシップを育み、下級生は上級生の姿から、なりたい自分の姿や将来をイメージさせる。 - めあてや役割分担、達成状況や学びを蓄積し、振り返るために、キャリアパスポートを意図的に活用することで、個人の活動に対する価値付けを行う。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	探究的な学習の課題を設定し、それらを解決するために必要な方法を選択し、追求し続けていく力。(思考力・判断力・表現力)	探究的な学習課題を設定することで、児童が主体的に学習しようという意欲を引き出すことができてきた。しかし、解決の方法を児童から引き出すことはまだ難しいため、各教科の学習で問題解決のための選択肢を身に付けさせていきたい。	- 学校や地域、自らの将来等、学年で身に付ける力を明確にし、実社会・実生活に生かせる指導計画を立てる。 - 各教科で身に付けた学習内容を活用して課題を追究する方法の選択肢を広げ、問題解決能力の向上を図る。 - SDGS への取組をすることで、身近な課題に気づき、課題解決をしようとする意欲をもたせる。